

歴史を引き継ぐ重み



平成 30 年度育友会長 佐々木 悟

平成 30 年度会長としての務めを何とか平穏無事に終えることができ、今は安堵しております。思い起こせば 4 年前、軽い気持ちでアンケートに「育友会活動に興味がある」と回答したことが全ての始まりでした。もちろん幹事・副会長・会長の道を歩むとは微塵たりとも想像していませんでした。

これまで父母会のような活動には参加した経験がないため、あくまで想像していた父母会との比較になりますが、育友会は単なる父母会と大きく異なるものというのが偽らざる実感でした。何故なら、参加している役員の方々は、非常に幅広いバックグラウンドの持ち主の方が多く、また、それを背景にご自分の知見を生かして、どうしたら学生のためになるか、どうしたらご父母の方々が参加しやすいか、常に真摯かつ熱心に取り組んでいらっしゃいました。軽い気持ちで参加してしまった私としては恥ずかしい気持ちでいっぱいでした。

会長までの経緯については割愛しますが、会長に就任することが決まり、その重責を思いその職務をどのように責任をもって全うしようかと考えました。特に育友会創立 60 年という歴史の重みには、それを引き継ぎ次の時代に繋げるために本当に身震いを感じました。

まず、活動の指針として皆様にとってわかりやすい言葉で呼び掛けたいと思い、「学生の皆さんには自信を、ご父母・保護者の方々には安心を」というモットーを決めました。どこまで実現できたかはわかりませんが皆様のご協力のもと様々な機会を通じて果して来たつもりです。

キャンパス見学会、就職懇談会に始まり最大のイベントである支部懇談会、大学や交友会関係のイベント

等スケジュールも過密でしたが、大変貴重な経験にやり甲斐も感じました。そして、育友会創立 60 周年記念式典が無事執り行なわれ、「我が子の母校は我が母校」との思いで校歌を歌い、歴史を引き継いだ時の感動は忘れることができません。

この他に親御さん同士の親睦会も大変楽しく、また、有意義に行われて来ました。この歳になり多くの友人を作ることもできました。

しかし、良いことばかりではなく課題も幾つかあります。中でもっとも大きなものは少子化による影響です。学生の入学に関しては大学の問題ではありますが、入学者が減れば育友会の会員も当然減ることになります。支部懇談会に出かけた際にも支部役員の方から次年度の役員を引き受けしてくれる方が見つからないと訴えられ、近年は支部存続の危機すら叫ばれています。育友会でも何とか対応できないか、できるところから考えていきたいと思っております。そして、役員の方々の積極的なご意見をもとに、新たに「育友会活動推進委員会」を立ち上げ、少子化による問題を含め課題解決に向けて議論を進めることになりました。これは、歴史を引き継ぐだけでなく、新たな歴史を作る原動力となるのではないかと今後の展開を期待しています。

最後になりますが、ご協力いただきました本部・支部役員を始めとする育友会員の皆様、ご指導・ご鞭撻をいただきました大学教職員・校友会役員の皆様、そして多くのご支援をいただきました育友会及び校友会事務局の皆様方に心より御礼申し上げ、退任の挨拶とさせていただきます。